

令和6年度
第5回大根中学校区学校整備懇話会
第3回振り返り資料

令和7年2月7日

1. 第3回懇話会の意見交換まとめ

市教育研究所による説明・倉斗教授による講演を受け、考えたこと

新たな学びに期待すること

子どものよりよい成長のために

個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく行う必要がある。

子どもたちに自身のやりたいと思うことをやらせてあげたい。そのくらいでも能力は育まれると思う。

新たな学びに関して気になること

生き得るデメリット

新たな学びが、子どもたちの学力向上につながること・ICTに依存する姿がなくなること・自己肯定感が高まること等の根拠を示すべき。

小中9年間の環境で過ごすことによる「高一ギャップ」発生のおそれはないのか。

義務教育学校に期待すること

他者との関わり

小中両方にメリットがあり、教職員も子どもたちから学べるのはよいこと。

9学年での異学年交流ができるのは子どもたちにもよいことだと思う。

異学年交流の機会を学校に集めてしまおうという考え方があってよいと思う。

未来づくり会議の中でも子どもたちから異学年交流は大事だという意見が出た。

いじめや不登校の減少につながるのはよいこと。

中学校に進学する際の子どもの心理的負担が軽くなり、学校側も継続的な指導ができるようになる。

放課後の子どもの居場所

放課後も学校で子どもを預かれるとよい。大人の目が届く場所で遊べるし、子ども食堂もやりやすくなるだろう。子どもが大人と関わる機会にもなる。

公立の学童は学年や時間の制約があり、民間の学童には不安がある。子どもの預かり場所が充実するとよい。

公立の学童は学年や時間の制約があり、民間の学童には不安がある。子どもの預かり場所が充実すると保護者も社会に出やすくなる。

兄弟のいる家庭の送迎先が1か所になることで負担が減り、兄弟と一緒に過ごせることで安心感もある。

予算を出し惜みせず、体育館や太陽光発電設備、蓄電設備、ガス供給設備等の避難所機能を充実させてほしい。

学校施設の建て方

施設分離型の義務教育学校の姿のイメージがまいち湧かないため、事例を紹介いただけると嬉しい。

施設一体型の義務教育学校ができるまでの経緯はどのようなものか、知りたい。

通学支援の検討

通学支援は必須だと思う。

通学時の送迎

自家用車による送迎ができるよう学校にロータリーをつくる等してほしい。義務教育学校が大根小・中学校に整備されるなら現在の大根公民館の敷地を活用できるかもしれない。

設備

駐車場の整備は必須。

義務教育学校に関して気になること

教職員の負担

義務教育学校のメリットの1つである、教員の負担軽減に対して理解を深めていくことが重要だと思う。

小中で働く環境が異なるため、色々な課題があると思う。それらを丁寧に解決していく必要がある。

子どもたちの評価の仕方もこれまでとは異なる。授業の仕方等も急に変更するのは難しく、教職員に対して丁寧に説明・対応していく必要がある。

先生方や地域の方にも懇話会の内容を知ってもらうことが大事だと思う。

保護者からの理解をまだ十分に得られていない中で、今後どのように保護者の声を拾っていくのか。

情報発信・合意形成

現在のこども園は複数の小学校区にまたがっているため、複数の小学校と接続する必要がある。

地域の中の学校

地域住民も集まれるような学校になるのが望ましい。学校を核としたまちづくりが大事。

上地区の話では、子どもたちと関わることを生きがいとしているボランティアの方々も多いようだ。そのような方々も関われる学校になるとよい。

こども園との関係

こども園も併設されると保護者の送迎先が1か所で済むのでよい。